

作成年月日	平成 27 年 11 月 30 日
作成部局 課室名	産業労働部国際局国際交流課 産業労働部観光監観光交流課

## 知事の海外出張（中華人民共和国、ベトナム社会主義共和国）の概要

2015(平成 27)年は、兵庫県と中国・海南省との友好提携 25 周年にあたり、これを機に、両県省の交流と相互理解を一層推進するため、井戸知事を代表とする友好代表団は、兵庫県議会中国友好訪問団、県民交流団ら総勢約 50 名とともに海南省を訪問し、劉省長と交流協議や共同声明の調印など、周年記念事業を実施した。また、この機会に友好提携を結んでいる広東省を訪問し、人民代表大会常務委員会黄主任と交流協議を行った。

さらに、井戸関西広域連合長を代表とする関西広域連合海外トッププロモーション訪問団がベトナム・ホーチミン市を訪問し、ホーチミン市長の表敬訪問、関西観光セミナー・交流レセプションや関西観光展の開催等各種プロモーションを実施し、ベトナムにおける「関西」の認知度向上、観光客の誘致に努めた。

I 期 間 平成 27 年 11 月 25 日(水)～29 日(日)

II 訪問地 中華人民共和国（海南省・広東省）、  
ベトナム社会主義共和国（ホーチミン市）

### III 主な内容

#### 1 兵庫県・海南省友好提携 25 周年記念事業 [中華人民共和国（海南省）]

##### (1) 劉省長への表敬訪問・交流協議

○ 日 時：平成 27 年 11 月 25 日（水）18:00-18:55

○ 場 所：シェラトン海口ホテル 2 階華府宴会場（海南省海口市）

○ 参加者：（別添 1 主な参加者について）

（海南省側）

劉省長、何副省長、陸人民政府秘書長、王外事弁公室主任、孫観光発展委員会主任、曹教育庁庁長、丁文化放送テレビ出版体育庁庁長、王商務庁副庁長等約 20 名

（兵庫県側）

井戸知事、上田兵庫県議会中国友好訪問団団長、齋藤在広州日本国総領事等約 20 名

○ 内 容：

これまでの 25 年にわたる両県省の友好交流の成果を改めて確認するとともに、幅広い分野における今後の一層の交流推進について意見交換をするため、劉海南省長と面談を行った。

劉省長から、「井戸知事を団長とする代表団を歓迎するとともに、今回、多くの人々からなる訪問団で来ていただいたことは、両省県の友好交流上重要なことである。」との歓迎の言葉があった。引き続き、同省長から、海南省は、①大気、水質などの生態環境がよく、これからも生態環境を守っていくこと、②中国最大の経済特区に指定されており、改革を通じた特区の建設を進めること、③島全体が国から「国際観光島」として指定をされていること、という 3 つの特長があり、それらの特長を発揮するとともに、観光を通して、いろいろな産業（健康・医薬品、教育・文化・体育・放送・映画、インターネット、不動産業、食品等）とともに発展を目指す海南省の現状の紹介があった。

また、今後の両省県の交流への提案として、①両首脳相互訪問が重要であること、②経済発展、特に医療・健康、観光、農業の分野で、もっと交流・協力を

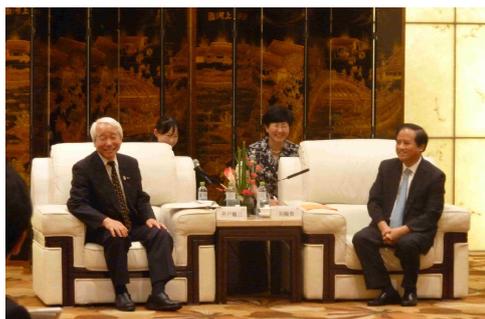
進めること、③教育・文化・体育の分野などいろいろな分野での交流を期待しているとし、毎年 11 月末に海南省で開催される海南省国際フェスティバル「歓楽祭」（観光、食品など総合的なイベント）について、今回は訪問日程上、残念ながら参加されなかったが、全世界から観光客が来るフェスティバルなので、来年は是非ともお越しいただきたい、との要請がなされた。

これに対し井戸知事は、「自然環境の良さを生かして観光プラス産業の振興をされているお話を聞いて、海南省の発展を確認できた。20 年前に来日した唐家璇外交部長から直接、『海南島は東洋のハワイになります』という言葉をお伺いしたがまさにそのとおりだと実感した。①お話のあった首脳を含めて交流を盛んにしていくことについては、交流の対象は、経済、青少年、スポーツ、文化の分野もある。大学、研究者の交流も必要である。もっと各分野で交流を盛んになるようにしていきたい。②特に青少年の交流は既に 10 月に海南省から、来月には海南省に兵庫県の高校生が訪れ、ホームステイをしている。ホームステイをし、生活をとすることは、将来に生きると思う。また、③健康をターゲットにするお伺いが兵庫県も高齢化が進行し、健康対策に重点をおいていこうとしているので、海南省の健康対策を学ばせていただきたい。さらに、④海南省へ年間 5,000 万人近い観光客がきているということだが、その 1 割の人でも兵庫県に来ていただけるような仕組みを作ればと思う。そのためにも省長に是非一度、兵庫県に来ていただいて、どのようなところかを確認していただければと思う。」と応えた。

また、⑤劉省長から要請のあった「歓楽節」への参加については、「香港経済交流事務所から新井所長が同席しているので、海南省とどのような調整をするかを見守りたい。」との回答を行った。

なお、⑥高校生の交流について、兵庫県教育・経済交流訪中団の団員として参加している小河県立兵庫工業高等学校長から、「海南省机电工程学校では、全国の技能大会で、1 位・2 位の優秀な成績を収めているとお伺いしているが、日本にも同様に工業高校を対象とした技能大会があるので、技能面での交流が実現できればと思う。ご理解・ご支援をお願いしたい。」との海南省側への要望があった。

交流協議の最後に、井戸知事から「友好交流 25 年となったが、今回 50 人近い訪問団を受け入れていただき、またこれから新たに共同声明に調印し、更なる交流の確認ができることに喜びを感じている。温かなおもてなしをしていただいた省長をはじめとする海南省の方々にお礼申し上げる。」とお礼の言葉を述べた。



(交流協議の様子)



(交流協議全体風景)

## (2) 共同声明調印 (別添 2 共同声明)

○ 日 時：平成 27 年 11 月 25 日 (水) 19:00-19:05

○ 場 所：シェラトン海口ホテル 2 階五洲宴会庁 A (海南省海口市)

○ 参加者：

(海南省側)

劉省長、何副省长、陸人民政府秘書長、王外事弁公室主任等 20 名

(兵庫県側)

井戸知事、上田兵庫県議会中国友好訪問団団長、新神戸日華実業協会訪問団団長、戸田兵庫県国際交流協会県民交流団団長、小池兵庫県教育・経済交流訪中団団長、

齋藤在広州日本国総領事等約 50 名

○ 内 容 :

交流協議に続き、井戸知事、劉省長による「**兵庫県・海南省友好提携 25 周年に際しての共同声明**」の調印が行われた。

この共同声明調印式には、海南省側から何副省长、陸秘書長、王外事弁公室主任、兵庫県側から上田兵庫県議会中国友好訪問団団長、齋藤在広州日本国総領事、岡田国際局長が立ち会いを行うとともに、兵庫県議会中国友好訪問団のほか、神戸日華実業協会訪問団、県民交流団、兵庫県教育・経済交流訪中団など、友好訪問団の多くの方も参加し、新たな交流の実施に向けた調印式に花を添えることとなった（共同声明は別添 2 に掲載）。



(共同声明に調印する井戸知事・劉省長)



(共同声明披露の様子)

(3) 記念レセプションの実施

○ 日 時 : 平成 27 年 11 月 25 日 (水) 19:15-21:00

○ 場 所 : シェラトン海口ホテル 2 階五州宴会庁 B (海南省海口市)

○ 参加者 :

(海南省側)

劉省長、何省長等約 10 名

(兵庫県側)

井戸知事、上田兵庫県議会中国友好訪問団団長、新神戸日華実業協会訪問団団長、戸田兵庫県国際交流協会県民交流団団長、小池兵庫県教育・経済交流訪中団団長、齋藤在広州日本国総領事等約 50 名

○ 内 容 :

海南省政府関係者及び兵庫県からの訪問団約 50 名ら、約 60 名の参加者が一同に会し、海南省主催の記念レセプションが開催された。

兵庫県の訪問団の紹介後、劉省長から「ホストとして、井戸知事を代表とする訪問団をお迎えすることができ大変嬉しい。また、友好提携 25 周年のお祝いができることにも大変嬉しく思う。ご承知のとおり、海南省は 1988 年に省として成立し、1990 年に兵庫県と友好提携を締結した。この 25 年間、経済、貿易、教育、文化などの様々な分野で満足できる交流を行ってきたと思う。この度、井戸知事を代表として海南省を訪問いただいたことは、両省県の交流の中で新しい 1 ページを開くものであったと思う。少し前に、和やかな雰囲気の下に交流協議を行い、また、先ほど共同声明調印を無事終えた。これからも、益々交流を進展させていけると信じている。」とし、「みなさんのご健勝とみなさんの今回の旅がよい旅になることを祈念して」乾杯がなされた。

井戸知事は、答礼の挨拶にあたり、「すばらしい 25 周年を記念する会合やレセプションを開催していただき、劉省長をはじめ海南省の方々には心より感謝申し上げます。友好提携 25 周年という 1/4 世紀にわたって交流を続けてこられたのは、両県省民の交流に対する熱意が実現させたものだと思う。国家と国家との関係は、時には厳しさが入ってくることがあるが、地方同士の交流、県民・省民の草の根交流ではそのような対立は生じない。特に若い青少年の交流として、相互に行き

来しホームステイをお互いにするように育ってきており、この体験が将来に力強く役立つことを願っている。これからも更なる海南省・兵庫県の友情と友好と交流をねがって私からも乾杯をしたい。」とし、乾杯が行われた。

その後、兵庫県、海南省の参加者が各テーブルで、楽しく談笑をし、友好の絆をより強いものとしていった。

また、記念レセプション終了後、井戸知事に海南省テレビ台及び海南日報から、「友好提携 25 年の交流の成果や今後の交流への期待」などについて、共同取材がなされた。



(レセプション風景)



(知事からの答礼)

## 2 地域視察

### (1) 兵庫友好庭園視察

○ 日 時：平成 27 年 11 月 26 日（木）8:00-8:30

○ 場 所：兵庫友好庭園（海南省海口市）

○ 参加者：（別添 1 主な参加者について）

（海口市側）

孫副市長、曹園林局次長等

（海南省側）

折外事弁公室副主任等全 3 名

（兵庫県側）

井戸知事、上田兵庫県議会中国友好訪問团团長等全 14 名

○ 内 容：

兵庫県は、友好提携 15 周年(2005 年)に両県省の一層の友好交流を促進することを目的として「兵庫友好庭園」を海南省に寄贈しており、今回の訪問に際し、現地での利用の状況を視察した。

同庭園は、昨年、現地を襲った台風で大きな被害を受けていたが、同省及び海口市の努力により修復されていた。また、海南省及び海口市では、来年 2 月までに、市街地に新たな庭園スペースをつくり、国際庭園などを集めることとし、兵庫友好庭園の移設も検討している。井戸知事からは、「この庭園をしっかりと管理していただきありがとうございます。ただ、兵庫友好庭園は当初の設計より小さくなってしまっているように思う。」と指摘し、同庭園の管理をしている海口市の孫副市長からは、「次の段階では、作り直して設計当初のままになるよう回復させたい。」との言葉があった。再整備にあたっては、十分な協力を検討する必要がある。



(庭園視察風景)



(記念撮影)

(2) 現地企業視察 かいなんてきあいせいびそう (海南迪愛生微藻有限公司)

- 日 時：平成 27 年 11 月 26 日 (木) 9:50-10:50
- 場 所：海南迪愛生微藻有限公司 (海南省海口市)
- 参加者：(別添 1 主な参加者について)  
(海南迪愛生微藻有限公司側)  
津田総経理、林工場長等 全 5 名  
(海南省側)  
折外事弁公室副主任等全 3 名  
(兵庫県側)  
井戸知事、岡田国際局長等全 7 名

○ 内 容：

健康サプリメントであるスピルリナを生産している海南迪愛生微藻有限公司を訪問し、製造工程について視察を行った。

スピルリナは 1980 年に、UNIDO (国連工業開発機関) の報告という形で「未来の重要な食糧」として、注目すべき食品であると発表されたもので、アミノ酸バランスのとれたたんぱく質やβカロテンが豊富で、消化吸収率が高く、含有成分が利用されやすいといった特徴をもっている。

同社は、インキの製造・販売の DIC 株式会社 (旧名：大日本インキ化学工業株式会社) の子会社で 1996 年に設立。従業員は、92 名 (事務所に 9 名、工場に 83 名で、日本人としては、津田総経理 1 人) で、スピルリナを乾燥粉末 (食品用・飼料用)、錠剤、キャンディの青色色粉として製造・販売している。工場面積は、235,300 m<sup>2</sup> (東京ドーム約 5 個分) で、また、年間生産能力は、スピルリナ乾燥粉末 300~350t/年で、このうち錠剤として 70t/年、色素 20t/年を生産しているとのことである。

同工場では HACCP 等の認証取得にも取り組んでおり、井戸知事も興味を持って会社運営等についての説明を聞くとともに、製造工程を視察した。



(製造工程見学の様子)



(記念撮影)

(3) ボアオ・アジアフォーラム会場視察

- 日 時：平成 27 年 11 月 26 日 (木) 13:30-14:45
- 場 所：ボアオ・アジアフォーラム会場 (海南省瓊海市)
- 参加者：(別添 1 主な参加者について)  
(ボアオ・アジアフォーラム側)  
管ハイナン・コスコ・ボアオ総経理助理等  
(瓊海市側)  
謝副市長等全 2 名  
(海南省側)  
折外事弁公室副主任等全 3 名  
(兵庫県側)  
井戸知事、上田兵庫県議会副議長等全 14 名

○ 内 容：

世界の政治家、財界人や知識人が集まるダボス会議を主催する世界経済フォー

ラムにならない、そのアジア版を目指して構想された、ボアオ・アジアフォーラムを訪問し、国際会議の開催の様子などを聴取した。

同フォーラムは、2001年2月に、中国政府の全面的支援のもと、日本を含む26か国の発起国代表がボアオに集まり、設立された。会議場一帯の地域については、世界有数の中国海運大手コスコの子会社が整備・運営主体となっている。現在の会議場は、2003年に完成し、隣接して、五つ星のホテルが2つとゴルフ場等が整備されている。会議場は、最大2,500人を収容できる。

また、同会議場は、フォーラムの開催の他、一般のイベントや会議にも使用され、年間を通して、ほぼ予定が詰まり、特に、冬季の2・3月は、避寒地であるため繁忙とのことである。

以上のような会議場運営についての説明を受けるとともに、会議場及びこれまで毎年開催されているボアオ・アジアフォーラムの概要を紹介する展覧館の視察を行った。



(会場視察の様子)



(記念撮影)

### 3 広東省訪問 [中華人民共和国(広東省)]

#### (1) 黄広東省人民代表大会常務委員会主任との交流協議

- 日時：平成27年11月27日(金) 9:00-10:00
- 場所：広東省政府(広東省広州市)
- 参加者：(別添1 主な参加者について)

##### (広東省側)

黄人民代表大会常務委員会主任、陳同大会常務委員会秘書長、梁同大会教育科学文化衛生委員会主任委員、邱同大会常務委員会外事委員会主任、李同大会常務委員会外事委員会副主任、李外事弁公室副主任、汪発展研究センター主任等全12名

##### (兵庫県側)

井戸知事、上田兵庫県議会中国友好訪問团团長、齋藤在広州日本国総領事等全16名

#### ○ 内容：

井戸知事を代表とする県代表団及び上田副議長を代表とする兵庫県議会中国友好訪問団が黄広東省人民代表大会常務委員会主任を訪問し、議場視察及び交流協議を行った。

##### (広東省側)

#### ア 広東省の現状

交流協議の冒頭、黄主任から、「井戸知事、上田副議長、齋藤在広州日本国総領事、さらに兵庫県からの皆様の訪問を心から歓迎する。また、広東省人民代表大会は、兵庫県議会と緊密な関係を築きたいので、関係者の方々に全面的な協力をお願いしたい。広東省は、友情を大事にしている。これからの友好関係を維持するとともに推進しなければならない。広東省は、中国の改革開放を先導しているが、友好省県間の協力が改革開放にとっても重要であり、これからも重要であることにはかわりない。」と歓迎の言葉を述べた。

また、①産業構造が高度化し、第一次産業の従事者が5%未満となったこと、②省民の生活レベルが向上し、一人あたりのGDPが1万米ドルとなったこと、③省民の教育、文化、医療も全体的に向上してきたこと、という広東省の現状の説明があった。

## イ 広東省の課題

広東省の抱える課題としては、黄主任は、「①地域により発展のバランスがとれておらず、省の東部、西部及び北部が遅れていること、②経済が高速に発展する一方、公共事業が経済の発展に追いついていないこと、③1人あたりのGDPが1万人米ドルとなったが、貧困について標準以下の人口が60~70万人おり、ゆとりのある社会の建設に大きな課題となっている。」とした。

## ウ 兵庫県との交流への期待

さらに、黄主任は、「昨日、第10回の省共産党委員会の全体会議を開催し、来年スタートの5年間計画について審議したが、この5カ年計画は、①イノベーション、②協調、③エコ、④開放、⑤シェアできるという5つの理念に基づいたもので、習国家主席は広東省にゆとりのある社会の先導となるように求められており、広東省では、2018年に実現できるように努力するという方針を出している。5つの理念のうち、「開放」を強化する。兵庫県との交流、兵庫県のイノベーション、ハイテク企業の経験に学びたい。また、大学や研究機関の交流も強化する。「エコ」の分野では、省民も大きな関心を持っており、兵庫県との交流においても環境保護の分野を重視しなければならない。企業、民間交流についても拡大していく。来年は新しい5カ年計画が始まるが、そのことは新しい交流のチャンスということの意味する。人民代表大会は、兵庫県とともに、広東省・兵庫県相互が発展できるように協力していきたい。」と広東省・兵庫県の交流への期待を述べた。

## (兵庫県側)

### ア 井戸知事

井戸知事からは、「黄主任には、広東省の現状、課題、そして、兵庫県との交流への期待をふれていただき、大変心強く思う。もともと広東省と兵庫県の交流は、32年の歴史を積み重ねてきている。その間、経済、環境、文化、青少年、学術研究等の多面的な交流を行ってきた。昨日の省共産党委員会全体会議で広東省の次期五カ年計画の5つの理念とゆとりのある社会の建設をめざすことが審議されたとのことだが、これらの実現をお祈りしたい。中国のこれからの経済は、GDP成長率6.5~7%の中・減速経済と伺っているが、それでも我が国にとれば超スピード成長であり、これからも中国が世界経済をリードすると思うが、これまでのように、そして、これからも広東省が中国の経済成長を支えていくことに変わりなく、広東省の目指す方向の実現に期待している。」と述べた。

また、両県省との交流に関して「経済面では、今年の日本広東経済促進会に汪発展研究センター主任が兵庫県を訪れていただいた。来年は、第15回促進会が広東省で開催されるので、私も訪問させていただきたい。参加メンバーは、銀行、商社、メーカー等のいろいろな企業で、また広東でも活躍している企業が多いので、この会議を中心に、広東省が取組んでおられる構造改革への協力関係を構築していきたい。環境の面においても、環境部局や関係者が、連絡を密にとり、PM2.5対策で具体的な情報交換と技術交流を続けてきた。青少年交流、大学生・研究者の学術交流や文化交流も進めていきたい。交流を強めることによって、大きな、強い絆をつくらせていただければと願っている。皆様にお目にかかれたことをお礼申し上げます。」と今後の交流の推進と今回の訪問団の受入れのお礼を述べた。

## イ 兵庫県議会中国友好訪問団

続いて、上田県議会中国友好訪問団団長から、「この度の心温まる受入れに対してお礼申し上げる。今回の訪問では、経済、観光、農業を通じて更なる友好の進展を図ることを目的としている。これまで日中の地域間交流をリードしてきた本県は、経済振興、観光問題の解決に積極的な役割があると確認している。県議会においても、兵庫県と広東省との一層の友好親善と友情が進展することを願い、また努力していく。」と両県省の一層の友好の進展への期待と努力を示した。

その後、県議会中国友好訪問団参加の4人の県議会議員から、自己紹介を兼ねて兵庫県と広東省との交流への期待等が述べられた。

### (まとめ)

以上の井戸知事、上田団長及び県議会議員の発言を受け、黄主任から「皆さんの広東省・兵庫県間の交流にかける熱意をお聞かせいただき、両省県の友情は時代とともに発展していくことを実感した。皆さんの広東省への祝福の言葉は、メディアを通じて、省民に伝わることと思う。また、日本広東経済促進会が重要なものであると実感し、来年の第15回促進会は広東省としても、発展研究センターとも連携し、成功するように頑張るので安心してほしい。またこの促進会が今後より一層、社会と企業の発展につながるものとなるように頑張っていきたい。さらに、議員のみなさんの発言を伺い、改めて兵庫県の議員のみなさんと広東省人民代表の交流が大事であることを実感した。今回のみなさんの広東省訪問の時間は短いですが、友情が末永く続くよう、広東省・兵庫県は努力をし、友情の絆を強めていきたい。」とした。

これを受け、井戸知事から「心温まる広東省の応対に感謝申し上げます。黄主任には以前日本にお越しいただいたことがあるとのことだが、兵庫県への訪問をお待ちしている。」と再度、今回の受入れのお礼を述べ、両県省の協議を締めくくった。



(交流協議の様子)



(交流協議全景)

## 4 関西広域連合海外トッププロモーションの実施 [ベトナム社会主義共和国(ホーチミン市)]

### (1) 観光プロモーションの実施

#### ① ホーチミン市・各省観光関係者、旅行エージェントとの情報交換

○ 日時：平成27年11月27日(金) 16:00-17:30

○ 場所：ミントランガーデン(ホーチミン市)

#### ア ホーチミン市の観光PR

大歓迎で迎えていただき、井戸連合長からの御礼のあいさつではじまった。次にホーチミン市観光局ラ・クオック・カン副局長から歓迎のあいさつにいただき、引き続きいて、ホーチミン市観光局からホーチミンの観光等についてのプレゼンテーションが行われた。

#### イ 旅行エージェントとの意見交換

○ 参加者：

(ホーチミン市側)

ラク・オック・カン ホーチミン市観光局副局長、グエン・ヴァン・タン TNT 社長、ホン・フー・ロック サイゴンツアーリスト社長ほか、トップテントラベル、ビンロンツアー、ビエトラベル、ピースツアー、タガートラベル等旅行関係者（別添3 主な参加者について）

（関西広域連合側）

井戸連合長、秋山関西広域連合協議会会長、天谷近畿運輸局長、光山日本旅行業協会関西支部長ほか、関西広域連合、関西経済連合会等関係者 合計26名（別添4 主な参加者について）

○ 内容：

訪問団が2つのグループに分かれて、現地の旅行エージェント等と意見交換を実施した。その中で、井戸連合長から、ベトナムからの訪日観光客が今年すでに昨年を上回り、最終的に18万人程度になるといった状況を説明し、さらなる観光客の関西への送客を依頼した。ホーチミン側からは訪日ビザのさらなる緩和等の要望や、大阪の宿泊施設の予約が取りにくい等の意見があった。

ウ 関係各省・関西広域連合の展示ブース

○ 参加者：

（ベトナム側）

グエン・バン・ドン ドンタップ省長、  
レー・バン・タム カント市副市長、  
グエン・バン・レン アンザン省文化スポーツ観光局長、  
ディー・クオック・タイ ドンナイ省長、  
ホー・ヴァン・ロイ バンタウ省スポーツ観光局長、  
グエン・ヴァン・クアン ヴィンロン省文化・スポーツ観光局長 等

○ 内容：

セミナー会場の各省の展示ブースを設け、関西からのさらなる観光客誘致のためのアピールを展開し、関西からの訪問団のメンバーは、現地の食や文化について熱心に説明を受けた。



〈旅行エージェントとの意見交換〉



〈展示ブースにおいてドンナイ省長と握手〉



〈展示ブースにおいてドンタップ省長と握手〉



〈各省等の出展ブースの様子〉

## ② 関西観光セミナー

○ 日 時：平成 27 年 11 月 27 日（金）18:00-19:10

○ 場 所：ミントランガーデン（ホーチミン市）

○ 参加者：

（ベトナム側）

中島敏在ホーチミン日本国総領事、グエン・バン・ドン ドンタップ省長  
レー・バン・タム カントー市書記、グエン・バン・レン アンザン省スポーツ  
観光局長、リン・クオック・タイ ドンナイ省長、ホ・バン・ロイ バンタウ省  
スポーツ観光局長、ホーチミン市 TV 局等マスコミ関係者等 約 100 名

（関西側）

井戸連合長、秋山関西広域連合協議会会長等はじめとする関西訪問団 26 名  
村元四郎団長、石井産業労働部長をはじめとする兵庫県ビジネスマッション団 24 名  
JAVIP クラブおよび関西琉球舞踊研究所 25 名

○ 内 容：

ベトナムの旅行会社、国内省長等、メディア関係者など約 100 名を招いた関西  
観光セミナー開催をした。まず、資料（別添 5）により、関西と関西広域連合の  
概要と特徴について説明、続いて関西の観光について、観光庁に認定されている  
広域観光周遊ルート「美の伝説の旅」と称して、関西広域連合の構成府県市の見  
所を紹介した。さらに、関西の温泉、和食・関西の食、ショッピングの紹介、最  
後に 2019 年のラグビーワールドカップと 2021 年のワールドマスターズゲームズ  
の PR を行った。ホーチミン市テレビ等のマスコミ関係者からの取材もあり、関  
西の観光 PR が積極的に取り上げられることが予定されている。

また、秋山大阪国際会議場取締役社長から、MICE についてのプレゼンテー  
ションを実施し、関西での国際会議等の開催の優位性をアピールできた。

加えてプレゼンテーション終了後にサプライズとして、ベトナム国内各地方の  
日越友好協会の連合体である日越友好連合協会のウェン・フー・ビン副会長（元  
日本国大使）より、井戸連合長が 2007 年からの友好交流の功績を称え表彰さ  
れた。（別添 6）

最後に、これまでの実績も踏まえ、ひょうご友好親善大使でもあるグエン・ト  
リ・ユン氏に KANSAI 観光大使の委嘱を行った。

また、尼崎を中心に活動している日越パートナーシップ（JAVIP）が、国  
際交流基金を活用した沖縄舞踊のベトナム公演を予定しており、セミナー終了後  
に公演を行った。



（関西観光セミナーの様子）



（ビン副会長から表彰を受けた井戸連合長）

## ※KANSAI 観光大使

ゲン・トリ・ユン氏(ミントラン社代表取締役、エヌ・アイ・シー・ディー(株)代表取締役等)

同氏は、一橋大学を卒業、筑波大学博士課程を修了し、国際連合地域開発センターでの勤務等を経て、1993年、日本でエヌ・アイ・シー・ディー(株)(旅行業許可)を設立。1994年、ベトナムでミントラン社を設立し、日越間の観光・経済・文化交流など様々な事業を展開。2003年からは日越パートナーシップクラブ(JAVIP)副会長にも就任し、日本-ベトナムの各分野で活躍。幅広い人脈と様々な取組を活かし、関西をはじめとする日本の魅力を発信している。

<参考/表彰等>

- 2007年 ひょうご友好親善大使
- 2013年 兵庫県功労者表彰
- 2014年 ベトナム首相功労者表彰
- 2015年 叙勲(旭日小綬章)



### ③ 交流レセプション

○ 日時：平成27年11月27日(金) 19:30-21:30

○ 場所：ミントランガーデン(ホーチミン市)

○ 参加者：

(ベトナム側)

中嶋敏在ホーチミン日本国総領事、  
ラク・オック・カン・ホーチミン市観光副局長、  
関西観光展出店企業(エースコック梶原社長、イオン石見支店長、ハウス岩石工場長、H I S磯崎支店長)マスコミ関係者等 約100名

(関西側)

井戸連合長、秋山関西広域連合協議会会長をはじめとする関西訪問団29名  
村元四郎団長、石井産業労働部長をはじめとする兵庫県ビジネスミッション団24名  
JAVIPクラブおよび関西琉球舞踊研究所25名

○ 内容：

関西観光セミナー等終了後、ミントランガーデン屋外の開放的な会場において、中嶋在ホーチミン日本国総領事、カンホーチミン市観光副局長、ベトナムの旅行会社、イオンモールでの関西観光展出展企業、メディア関係者など約100名を招いたレセプションを開催した。関西のお菓子やお酒を振る舞うとともに、各府県市のPR映像などを通じて「関西」をアピールした。関西観光セミナーや意見交換などに加えて、今後もさらなる日越の交流が深まることが期待される。



<関西琉球舞踊研究所のステージ>



(交流レセプションの様子)

## (2) 関西観光展の開催

○ 日 時：平成 27 年 11 月 28 日（土）14:10-14:45

○ 場 所：イオンベトナム タンフーセラドン店内（ホーチミン市）

○ 参加者：

（関西観光展出展者）

エースコック、ハウス食品、グリコ、ロート製菓、JTB、HIS

（関西広域連合側）

井戸連合長、秋山関西広域連合協議会会長、天谷近畿運輸局長、光山日本旅行業協会関西支部長ほか、関西広域連合、関西経済連合会等関係者  
合計 29 名

○ 内 容：

ホーチミン市内の大型商業店舗イオン・タンフーセラドン店において、日本ではお馴染みの関西からの進出企業、エースコック、ハウス食品、グリコ、ロート製菓の 4 社と、旅行会社の HIS と JTB の 2 社と共同で 11 月 23～28 日の 1 週間開催した「関西観光展」の最終日となる 28 日に今回の訪問団が観光展に参加し、観光 PR を行った。まず、華やかなブースの前で記念撮影を行い、後に法被を着てパンフレット等の配布、これに合わせて兵庫県品の PR と試食も行った。ベトナムでは、イオンモールは日本のスーパーとして人気が高く、特に試食コーナーは盛況であった。ただ、大阪、京都、神戸の知名度は高いものの、「関西」の認知度はまだ低く感じられ、一般消費者に対する「関西」全体の観光情報のよい PR の機会となった。



〈関西ブース前での記念撮影〉



（観光 PR の様子）

## (3) ホーチミン市テレビ局訪問

○ 日 時：平成 27 年 11 月 28 日（土）9:00～10:20

○ 場 所：ホーチミン市テレビ局（ホーチミン市）

○ 参加者：

（ホーチミン市テレビ局側）

ニュエン・クイ・ホア 社長、

ロン・ヴァン・ミン 計画局長、ダン・シャン・ドン 総務局次長、

レ・チェン・サン 技術管理局副局長、

グエン・クオック ドキュメンタリー制作局副局長

（関西広域連合側）

井戸連合長、秋山関西広域連合協議会会長、天谷近畿運輸局長ほか  
合計 8 名

○ 内 容：

井戸連合長より、昨年に招へい旅行として関西に来ていただいていることと、今回の取材を受け入れていただいたことに感謝の意を述べ、さらなる相互に訪問できる環境整備をお願いした。

ホア局長からは、朝日放送とパートナーとして業務展開するようになって4年経過し、日越交流1300年の歴史のドキュメンタリー番組を制作をしたこと、また、昨年には桂文枝に訪越いただき「新婚さんいらっしゃい」のベトナム版を作成、放送したことが報告された。そして、ユンKANSAI観光大使の橋渡しもあり、友好交流が益々盛んになることを期待されていた。日越のマスコミ交流が進んでいることともに、関西をよく知ってもらえる機会が身近にあることに驚かされた。

問題提起としては、さらなるビザ手続きの緩和等を求められ、昨年11月から原則短期観光目的ではビザが免除されたが、指定旅行社等を通じてしか認められず、運用上まだ問題がある現状を認識することができた。

さらに、意見交換の後、別室で井戸連合長、秋山会長、天谷運輸局長の3名が取材を受けた。井戸連合長は、関西の魅力の紹介、関西の観光の潜在力についての取材が行われ、別添の関西観光セミナーの内容をアピールした。また、ユンKANSAI観光大使にも、大使としての最初の仕事として取材を受けていただき、テレビ局側からも今後も持続的に力添えいただくこととなった。



(訪問の様子)



(取材の様子)

## 5 各種観光交流事業等の実施

### (1) ホーチミン市長表敬訪問

○ 日 時：平成27年11月28日(土) 17:00-17:45

○ 場 所：ホーチミン市役所 (ホーチミン市)

○ 参加者：

(ホーチミン市側)

レ・ホン・クアン ホーチミン市長、グエン・バン・ビン サイゴンツーリスト  
総裁、ラ・ヴァン・コア ホーチミン市商工局長、グエン・ハン 文化スポーツ  
局副局長、レ・クアン・ロン ホーチミン市外務局副局長、ホアン・ヴァン・  
ホン 人民委員会事務局長、グ・ゴック・アン 技術計画局長

(関西広域連合側)

井戸連合長、秋山関西広域連合協議会会長、天谷近畿運輸局長、光山日本  
旅行業協会関西支部長ほか、関西広域連合、関西経済連合会等関係者  
合計13名

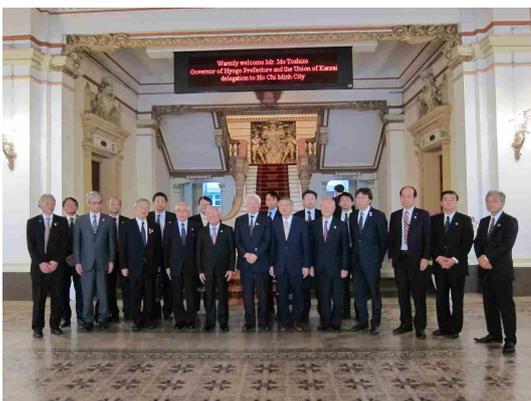
○ 内 容：

井戸連合長の市長への表敬訪問は今回で3回目となり、レ・ホン・クアン市長  
と2年ぶりの再会となった。知事から、今回は関西広域連合として、関西への観

光客誘致を主な目的にプロモーションや観光展を開催するため来越したことなどを説明のうえ、昨日からの行程の内容や感想を含め幹部と意見交換を行った。これに対し、クアン市長から、ホーチミンでは3回目となるジャパンフェスティバルを開催するとともに、6000人に近い日本人が居住しているなど、益々日本との関係が深くなっているとの話があった。

こうしたなか、井戸知事から、ホーチミンやホーチミン周辺の地方自治体を含めたホーチミン連合と関西との交流のためのプラットフォームづくりを提案し、ユン関西観光大使を通じたさらなる交流をめざすこととなった。

その後、ホーチミン市長主催の夕食会が開催され、ベトナム舞踊などが披露された。



(記念撮影)



(表敬訪問の様子)

## (2) エースコックベトナム工場の視察

- 日時：平成27年11月28日(土) 11:00～12:15
- 場所：エースコックベトナム・ホーチミン工場(ホーチミン市)
- 参加者：

(エースコック側)

梶原潤一社長、武田恭明社長代理 ほか

(関西広域連合側)

井戸連合長、秋山関西広域連合協議会会長、天谷近畿運輸局長、光山日本旅行業協会関西支部長ほか、関西広域連合、関西経済連合会等関係者  
合計26名

- 内容：

日本でもお馴染みのエースコックは、20年前にベトナムに進出したが、この訪越の機会に、即席麺製造販売のエースコックベトナム株のホーチミン工場を訪問した。製造工程等の視察や関西のPR等について意見交換を行った。梶原潤一社長から歓迎の言葉いただき、ベトナム進出から20年、ベトナムの経済発展と重なり成長できたこと、会社設立から操業開始や商品の品質向上の苦労話があった。

関西へも社員のインセンティブ旅行を計画しており、兵庫県加東市の工場へも伺う予定があるということが伝えられた。

工場視察の前に、武田社長代理から会社概要や今後の展開等について説明(別添7)があった。ベトナムにおける2014年の即席麺の需要は50億食で、日本の55億食と同量であるが、一人あたりではベトナムの方が上回っているということである。国内に7拠点11工場を構え、ベトナムの地から世界展開を図っていくということ、また、ベトナム市場のおよそ5割のシェア(25億食)を占めているということ、5億食はアジアを中心に輸出している。このように関西の企業が活躍されていることに感銘を受けるとともに、今後とも関西として連携を図ることが交わされた。続いて、工場視察を行い製造工程を説明いただいた。

ベトナムでの即席麺のシェア50%以上と、日越融合や現地化を推進する関西企業のベトナムでの活躍に、日本企業のベトナムでの発展の鍵が見いだされた。



(梶原社長との歓談の様子)



(記念撮影)

### (3) イオンベトナム関係者との意見交換

○ 日 時：平成27年11月28日(土) 15:15~16:00

○ 場 所：イオンベトナム タンフーセラドン店内(ホーチミン市)

○ 参加者：

(イオン側)

尾山長久イオンベトナム代表、西峠イオンベトナム CO. LTD 社長、  
長谷川恒イオンシティマート CO. LTD 社長 ほか5名

(関西広域連合側)

井戸連合長、秋山関西広域連合協議会会長、天谷近畿運輸局長、光山日本  
旅行業協会関西支部長ほか、関西広域連合、関西経済連合会等関係者  
合計20名

○ 内 容：

今年7月に包括連携協定を締結し、今回のベトナムでの観光プロモーションにおいて関西観光展の開催にご協力いただいたイオンと意見交換を行った。

まず、イオン側からパワーポイントを使って、①ベトナムの消費者の購買力が上がりつつある状況、②イオンとしては中心部にミニストップなどのコンビニ形態の店を充実させ、郊外には大型店舗を立地させていくといった総合的な戦略をもっていること。③大規模店については、現在、ホーチミンに2店舗、ハノイに1店舗であるが、立地創造の視点で将来的には店舗数を増していく計画であること。④販売促進には、バイクの駐車場を完備していること、SNS等を使ってのイベント案内等をしていること、さまざまな地元の方々に楽しんでもらえるようなイベントを開催していることなどがあげられるなどの説明があった。

その後、意見交換に入り、年間1200万人以上の集客があるが、どのような層の顧客が多いのかといった質問に対し、大学卒業者で月収300ドル以上の中間所得者以上をターゲットにしていること、それでもお弁当などは一食200円程度が平均単価になっているとのことであった。

現時点ではすべてのお客さんが買い物をしている訳ではなく、売り上げもこれからだが、今後、人口の増加や経済力の強化により、観光面、物流面を含めさらにベトナムがさらに魅力ある市場となりうるとの期待が大きいとのことで意見交換がまとめられた。



(イオンへの感謝を述べる井戸連合長)



(意見交換の様子)

#### (4) ホーチミン空港でのドクさんとの出会い

○ 日 時：平成 27 年 11 月 27 日（金） 15:00～15:05

○ 場 所：ホーチミン空港

○ 面談者：グエン・ドク

○ 内 容：

ベトナム戦争における枯葉剤の被害者で、元兵庫県立総合リハビリテーションセンター所長の澤村医師等により分離手術がなされ、既に成人となったドクさんにホーチミン空港で偶然お逢いした。ドクさんは現在お二人のお子様があり、元気に病院で事務の仕事をされる傍ら、平和の大切さについての講演活動を行っているところを聞くことができた。



到着した空港での出会いの様子

#### IV 渡航日程

区分		活動概要	備考
11/25 (水) 1日目	海南省友好提携	出発 海南省海口市着 兵庫県・海南省友好提携25周年記念事業 (表敬訪問・交流協議・共同声明調印、記念レセプション)	海口泊
11/26 (木) 2日目		兵庫友好庭園視察 現地企業視察 ホアオ・アジアフォーラム会場視察 海口市発 広東省広州市着	広州泊
11/27 (金) 3日目	観光 ホーチミン	広東省人民代表大会訪問・交流協議 広州市発 ホーチミン市着 ホーチン市、各省観光関係者、旅行エージェントとの情報交換 観光プロモーション(関西観光セミナー) 交流レセプション	ホーチミン泊
11/28 (土) 4日目		ホーチミン市テレビ局訪問 エースコックベトナム工場視察 イオンフーズ店における関西観光展でのプロモーション イオン関係者との意見交換会 ホーチミン市長表敬訪問	機中泊
11/29 (日) 5日目		ホーチミン市発 帰国	

(問い合わせ先)

産業労働部国際局国際交流課交流企画班交流推進担当

TEL: 078-362-9017

産業労働部観光監観光交流課ツーリズム政策班国際観光担当

TEL: 078-362-3340